

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	コミュニティ・オーガナイズィングを活用した学生と地域・非営利活動団体による課題解決協働プログラム (モデルづくり)
2 事業期間	令和7年7月 ~ 令和8年1月
3 事業内容	<p>具体的な内容 (いつどこで何を実施したか等)</p> <p>本事業の参加者=団体：5団体 (12人)、学生：6人</p> <p>①団体対象：集合研修「リーダーシップを引き出すコーチング」 7月27日 10～12時半@なは市民活動支援センター会議室8 参加者数：9人</p> <p>②学生対象：集合研修「リーダーシップを引き出すコーチング」 7月27日 14～16時半@なは市民活動支援センター会議室1 参加者数：8人</p> <p>③合同研修「非営利活動における関係構築」 8月4日 14～17時@なは市民活動支援センター会議室1 参加者数：14人</p> <p>④合同研修・振り返り会「コーチングとチーム構築の視点からの振り返り」 10月25日 13～16時半@なは市民活動支援センター2階会議室1 参加者数：7人</p> <p>⑤フォローアップ研修「相互コーチング」 1月25日 14～17時@琉球大学人文学部棟研究室 参加者数：3人</p>

	達成目標（事業計画書と連携させる）	目標数値	実績値	達成度（%）
4 達成目標と達成度	①CO 研修・実践プログラムに参加する若者数（大学生・高校生）	①10 人以上	①6 人	①60%
	②非営利団体5 団体以上の参画と協働体制の構築	②5 団体以上	②5 団体	②100%
	③研修（座学）＋フィールド実践＋振り返りという3 段階のプログラム開発の評価（主催者の自己評価で必要性、有用性、持続性などを分析）	③成果が出ている（定性）	③一定の成果が出ていると考えている	③一定の成果が出ていると考えている
	④参加者アンケートによる評価（プログラム有用度や、課題意識の醸成、肯定的な変化など）	④肯定的な変化を7割以上が感じている	④アンケートで90%が前向きな変化や、プログラムを肯定的な評価があった。	④90%以上。肯定的な変化があったと考えられる。
	⑤受け入れ団体の「関係構築力」評価の向上	⑤肯定的な変化を7割以上が感じている	⑤アンケートで参加者の全員が関係構築や価値観の共有についての課題や重要性をコメントしている。	⑤100%

結果に至る理由、気づき、検証等

【参加者の変化について（アウトカムの評価）】

参加者からの「参加してよかった」「学べてよかった」という肯定的な声が多く、参加者アンケートにおいても90%が前向きな変化を回答しており、ニーズとの整合性が確認された。また、プログラム参加者が早速、普段の活動に学んだことを生かそうとチャレンジしている姿が見える。

【プログラムの開発について（アウトプットの評価）】

毎回実施した参加者アンケートでは例えば、回答者の全員が参加してよかった点や次のチャレンジについて回答。また、アンケートや振り返り回で、自身や自団体の関係構築や価値観の共有について大切さや課題に言及しており、普段の活動や自身の行動におけるコミュニティ・オーガナイズ（以下、CO）を生かした考え方や行動などが現われており、肯定的な変化があったと評価できる。具体的な例として、「非営利活動における関係構築」に参加した学生から、関心のある企業や団体がどのような社会を目指しているかという価値観を知ること、そこで働きたい、活動したいというモチベーションになるという感想が聞かれた。

以上のことから、本事業で実施した座学・実践・振り返りの3段階構造による協働研修プログラムを開発し、実践するというモデルづくりの目的はある程度達成できたと考える。

【参加者数、スケジュールや広報について（事業の実施体制について）】

計画時に想定していたよりも参加者を集められなかったのは反省点の一つである。

要因として、学生の夏休み期間におけるボランティア活動を軸にしたプログラムのスケジュールを組んだが、交付決定からの実施ではとてもタイトなスケジュールになった。また、連続講座ということもあり、途中参加者が増える内容ではなく、どうしても体調不良や外せない予定などが重なると、人数は減る一方になる。

広報チラシとしては、本プログラムでやりたいことをチラシ1枚で伝えてることが難しいと感じた。内容が伝わり、「参加したい」と思える発信コンテンツや媒体も工夫していきたい。

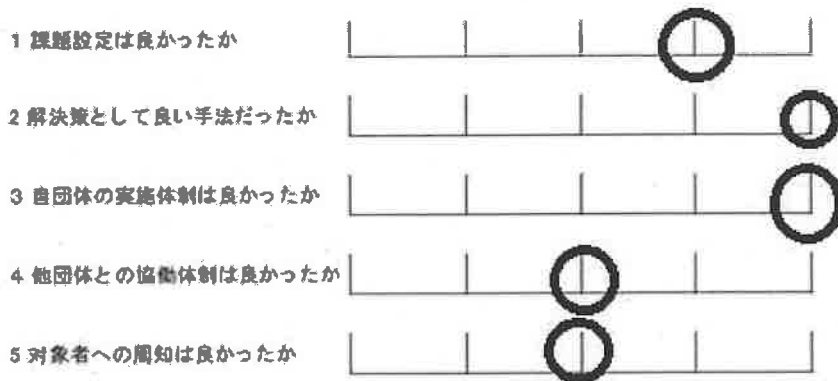
改善策としては、広報体制としては、①事前準備として、交付決定前からの参加の呼びかけや協力団体への打診の検討、②ゆとりのあるスケジュールの設定、③チラシの工夫、④連続講座とは別に、プログラムの導入となる「初級編」などを複数回実施し、関心のある層を増やし、連続講座につなげるなどプログラム内容の改善など、幅広く考えていきたい。

	<p>【総括】</p> <p>総括としては、反省点や次回の改善点はあるものも、課題の設定や解決に向けたアプローチ、実施プログラムによる肯定的な変化などは適切だったと考える。本助成事業の趣旨とも合致していることから、実施は適当で、参加者の意欲変容や実践への応用意欲が確認され、単年度事業として一定の成果を達成したと評価する。</p> <p>総じて、本事業により CO を活用した若者・団体協働型実践プログラムの基礎設計と実証を単年度内で完了することはできたと考える。</p>
5 事業の成果	<p>事業を実施したことで得られた結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に及ぼした影響 CO の考え方や手法を学び、相互コーチングや価値観の共有の実践を通じて、セルフコーチングや団体内のコミュニケーションの向上や、自分（自団体）が抱える課題とその改善方法を自ら考え、取り組んでいく習慣の第一歩を歩んだ。 ・連携機関、協力者に及ぼした影響 参加者が参加、所属する団体において、ボランティアや地域を巻き込む際に重要となる関係構築や価値観の共有の重要性を知る機会を提供できた。 ・地域、コミュニティに及ぼした影響 本事業は参加者向けプログラムだったため、期間中、地域への直接的なアウトカムを測ることはできなかった。今後、参加者や参加団体が地域活動を続けていくことで、相互コーチングや、より主体的な活動が広がっていくこと、また地域課題の解決に寄与することを期待している。
6 次年度以降の展開	<p>（ビジョンを見据えたうえで次年度以降に予定している展開）</p> <p>次年度以降の活動として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市民・学生向けに「市民活動向け CO 導入講座」 ②受講修了者（過去の受講者含め）向けに「相互コーチング会」を複数回 ③団体向けの「団体等への CO を活用した伴走支援」（募集・随時受付、一定期間の伴走支援） <p>などの取り組みを検討している。</p>

7
実施した事業
全体への自己
評価とその理
由

①自己評価(5段階評価)

当てはまるところに○をつけてください。



②上記の結果となった理由について

課題設定：4点

→課題としてはよく挙がり、言われる課題であり、解決したいというニーズはあった。

解決策の適正：5点

→自団体の強みである CO を活用したアプローチであり、参加者の満足度も高かった一方、かつ連続講座というハードルの高さは反省点だが、解決策としては適正だったと考える。

実施体制：5点

→事業を実施する人員体制としては問題なく、当初計画では予定していなかったフォローアップ会を実施するなど、追加プログラムにも臨んだ。

協働体制：3点

→関係機関との連携は周知段階が主となったため、協働というよりも連携のレベルか。参加団体とはプログラム以外での支援や連携、取り組みへの参加があり、参加団体との協働は進んだと考える。

対象者への周知：3点

→事業の達成目標や評価でも記したが、周知期間が短く、かつ連続講座ということで途中参加ができなかった点も反省点。

<p>8 市への要望・ 欲しい支援等</p>	<p>なは市民活動支援事業に係る下記の項目に対して (①事業説明会 ②個別相談 ③募集期間 ④広報支援 ⑤オープンデータ 等)</p> <p>③募集期間について 今回のプログラムは夏休みに合わせて設定したかったが、全体的にスケジュールがタイトになった。申請団体としての設計の甘さもあるが、募集期間や交付決定がもう少し前倒しできるなら、ほかの団体含めてより効果的な事業実施ができる可能性もあるのではないかと感じた。</p> <p>・その他について 今回、団体構成員に対するプログラム開発に関する謝礼は謝礼金の対象外だった。講師として依頼しつつ、事前準備が多かったため、講師謝金としての上乗せを検討したが、講師謝金は事前準備時間を含めず、当日の対応分のみが対象という判断を受けた。 専門性が高く、かつ、準備やプログラム開発に時間がかかる分に対しても、(例えば、事務局と協議し、認めれた場合は OK や、プログラムに関する別途報告を持って OK など) 一定の配慮がほしい。認められれば、幅広い市民活動につながっていくと感じる。</p>
--------------------------------	---